

しのめだより



兵庫県立篠山東雲高等学校

丹波篠山市福住 1260

Tel : (079)557-0039 Fax : (079)557-1888

第8号 令和8年3月9日 発行
facebook 本校HP



こまるいの（篠山東雲高校マスコット）



← 随時更新中！ HP、Facebook をご覧ください。

第15回 卒業証書授与式

2月27日（金）第15回卒業式が挙行されました。来賓や保護者の多数のご臨席を賜り、20名の卒業生の門出を盛大に祝うことができました。以下に卒業生の答辞を掲載します。

答辞

日差しが日一日と温かさを増し、春の訪れを感じられる今日の良き日、私たちのために、このような式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中ご出席いただきました、ご来賓の皆様、富田校長先生をはじめとする先生方、保護者の皆様、在校生の皆さんへ、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

先ほどより皆様からいただいた、数々のお祝いのお言葉を胸に、本日、私たち二十名は、篠山東雲高等学校を卒業します。三年間を振り返ってみれば、あっという間で、もう卒業ということに驚いています。何気ない会話や、みんなと笑いあった日々は、大切な宝物です。もちろん楽しいことばかりではありませんでしたが、失敗や苦勞も含めて、いい思い出となっています。

入学した時は、友達ができるか、授業についていけるか、など、不安もありましたが、一年生が始まって最初のオリエンテーション合宿では、あまり話したことのなかったクラスメイトとも話をして、徐々に仲良くなっていきました。夜にはオバケ騒動で寝られなかったことも、今となっては笑い話です。実習の授業では、何もかもが初めてで、道具の場所も使い方もわからない状態でしたが、一年かけて頑張っ、色々なことを覚えていきました。

私は、一年生の後半に生徒会にも入りました。最初から前向きな気持ちで仕事ができただけではありませんでしたが、行事の運営に携わっていくうちに、少しずつ責任感も湧いてきました。体育風紀委員長として初めての球技大会では、覚えて間もないズンバを一人で踊る自信がない中、友達と一緒に、振り付けはところどころ間違えながらも、楽しくお手本として踊ったことも、鮮明に覚えています。

二年生では、修学旅行がありました。大相撲を見に行く聞いて、想定外のことにびっくりしましたが、実際に見に行くと、思いのほか面白かったです。自由時間での行先決めでは、班員のみんなで「ここおいしそう」「これ食べたい」など、食べ物の話ばかりしながら、楽しく決めました。現地では、事前に調べたところ以外にもおいしそうなお店を見かけては、覗いていくの繰り返しでした。屋形船ではご飯を食べた後、みんなでカラオケをして、とても楽しかったです。

二年生の終わりには、インターンシップがありました。慣れないことの連続で不安もありましたが、ここでしか得られない知識を教えてもらったので、すごく良い経験になったと思います。インターンシップ後のお礼状作成では、感謝の気持ちをどのように伝えたらいいのかわからず、何回も書き直しをしました。放課後の教室でみんなと一緒に頑張った時間は、かけがえのない思い出の一つです。

販売実習には、何度も参加しました。一年生の頃は、販売の仕方やおつりの計算に慣れなくて、あまり好きではありませんでしたが、二年生になって慣れてくると、どんどん売り方もわかるようになってきました。自分がおすすめしたものを買っていただいた時は、とてもうれしかったです。特に農林漁業祭の販売実習の時は、数の多かったナスをおすすめした結果、全部売りさばくことができ、大きな達成感がありました。



三年生からは、現場実習が始まりました。体をずっと動かして、周りを見ながら行動するのは疲れましたが、仕事をするとはどういうことか、少しだけ体感することができました。現場実習と同時に課題研究も始まり、友達と二人で、調べ学習からポップ・説明書作りなどをしながら、試作を繰り返しました。完成した商品は、農林漁業祭や文化祭でも販売ができて、よかったです。課題研究へ一緒に取り組んだパートナーには助けられっぱなしでしたが、最後まで一緒に頑張ってくれたこと、本当に感謝しています。

卒業や進路について考えることが多くなると、テストが迫ってくるのが毎回怖くなりました。二年生の頃より、テスト前に苦手科目を勉強する時間が増えた分、あまり睡眠がとれない時もあり、悩み事も多くなりました。ロングホームルームで、面接練習や自己分析をした時は、自分の長所がなかなか言葉にできず、友達に相談をしました。友達同士で長所を出し合い、互いに協力しながら面接を乗り切れたのは、このクラスでお互いのことをたくさん知っていたおかげだと思っています。

文化祭が終わると、もう卒業まで秒読みで、先生に「あと学校に来る日は何日やな」と言われるたび、『もう卒業か…』と、少し寂しい気持ちが日増しに強くなっていきました。休み時間でのとりとめのない話や、趣味の話。何気ない毎日を振り返ると、そこにはいつも、クラスのみながいました。改めて、三年間、このクラスで過ごすことができて、本当に良かったです。

先生方にも、本当にお世話になりました。担任の先生をはじめ、各先生方へは、個性の強いクラスで気苦労をおかけしたと思います。私たちのことを卒業まで導いてくださり、ありがとうございました。

お母さん、お父さん。三年間支えてくれてありがとう。毎日のお弁当や、行事の時の送り迎えなど、家族にはお世話になりっぱなしでした。プリントや水筒の出し忘れ、そのほか些細なことでよく口喧嘩をし、同じことを何回注意しても直らないことで、疲れさせてしまったこともあったと思います。それでも、身の回りのことを欠かさず世話を焼いてくれ、家に帰ってからは、学校であった話などを聞いてくれて、ありがとう。家族が一番近くで支えてくれたからこそ、ここまで元気にやってこられました。まだまだ苦勞を掛けるとは思いますが、これからもよろしくお願いします。卒業後も前を向いて進んでいくことで、少しは恩返しできるよう、頑張ります。

最後になりましたが、地域の皆さんには、文化祭での交流をはじめ、これまで温かく見守ってくださったこと、本当に感謝しています。また、後輩には、これからの篠山東雲高校を、より良いものにしてほしいと思っています。これからもみんなが笑っていられる、元気な学校にしていってください。私たちはこの先、それぞれの道を力強く突き進んでいきます。

感謝の言葉は尽きませんが、この、篠山東雲高校のますますのご発展を、心より祈念して、答辞といたします。

令和8年2月27日

卒業生代表

- 篠山東雲高等学校 表彰対象者
- 御下賜金記念優良卒業生
 - 全国農業高等学校長協会賞
 - 兵庫県産業教育振興会長賞
 - 兵庫県高等学校長協会農水産部会長賞
 - 兵庫県学校農業クラブ連盟表彰
 - 皆勤賞

